

「令和元年台風15号における鉄塔及び電柱の損壊事故調査検討
ワーキンググループ」の設置について

令和元年11月5日
産業保安グループ

1. 趣旨

令和元年9月に関東地方に上陸した台風15号では、東京電力管内の鉄塔2基の倒壊事故や多数の電柱が倒壊・損傷する事故が多数生じた。

これらの事故により、千葉県を中心に最大停電戸数約93.5万軒の大規模停電が発生し、全面復旧まで長い時間を要するなど、長期にわたる大規模停電により国民生活や経済活動に甚大な影響を及ぼした。

こうした事態を踏まえ、電力の安定供給の確保の観点から、台風等の自然災害による送配電インフラの事故原因を究明し、強靱な送配電設備を構築していくことが強く求められる。

こうした中で、本年10月31日に行われた「総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 電力・ガス基本政策小委員会/産業構造審議会 保安・消費生活用製品安全分科会 電力安全小委員会 合同電力レジリエンスワーキンググループ」にて示された中間論点整理において、鉄塔・電柱の技術基準見直しを含めた検討を実施することとなった。

このため、今般の鉄塔や電柱の倒壊・損傷等の原因究明や現行の技術基準の適切性、再発防止策について、近年の自然災害を踏まえつつ専門的な観点から検討するため、「令和元年台風15号における鉄塔及び電柱の損壊事故調査検討ワーキンググループ (WG)」を設置し、今後検討を行うこととする。

2. 検討項目

- (1) 令和元年台風15号による送配電設備の被害の原因究明
 - ①鉄塔の倒壊の原因分析
 - ②電柱の倒壊・損傷の原因分析
- (2) 事故原因を踏まえた現行の技術基準の適切性について
- (3) 事故原因を踏まえた再発防止策の検討
- (4) その他

3. スケジュール (予定)

令和元年	11月5日	第1回
	11月下旬	中間とりまとめ

⇒本WGにおける中間とりまとめは、レジリエンスWGへ報告
⇒引き続きWGを開催し議論

以上